

1. 取組内容の進捗状況(令和5年度)

【京都大学・東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・京都大学での実績

受入:学生18名(10カ国)

- 「長期交流プログラム」(6ヶ月, 実渡航, 単位取得有, 2023/10~2024/3): エチオピアからの招聘学生1名を受入
- 「短期交流プログラム」(3ヶ月, 実渡航, 2023/10~12): コンゴ民1名、セネガル1名、タンザニア1名、マダガスカル2名を受入
- 「短期交流プログラム」(3週間, 実渡航, 2023年12月): JSTさくらサイエンスプログラムを活用し、学生10名(5ヶ国: ザンビア3名、エチオピア3名、マダガスカル1名、カメルーン1名、ケニア2名)を受入
- 「短期交流プログラム」(1週間, 実渡航, 2024年2-3月): JSTさくらサイエンスのプログラムを活用し、学生2名(カメルーン)を受入
- SDGsをテーマとした集中講義・日本語基礎講座・受入教員の個別指導、京都市動物園、琵琶湖疏水、ダイキン工業見学

派遣:学生33名(10カ国)

国際合同コンフェレンス:計62名が参加し、受入学生16名、他9名が研究発表を実施

・東京外国語大学での実績

長期留学(実渡航[単位取得有])

- 4ヶ国から8名を受け入れ、4ヶ国へ11名を派遣

短期・長期留学(実渡航[単位取得無])

- 3ヶ国へ3名を派遣し、フィールドワークを基盤としたプログラムを実施

短期留学(オンライン)派遣

- プロテスタント人文社会科学大学(ルワンダ)とのCOIL型授業で学生9名が単位を取得

国際合同コンフェレンス(東京)

- 9月に9ヶ国から77名が参加、4ヶ国から11名が発表。10月には86名が参加、5ヶ国15名が発表した。



〈国際合同コンフェレンス集合写真 京都大学 2023年12月〉

	2023(R5)	
	計画	実績
学生の派遣	18	56
学生の受入	17	26



〈右:日本語クラスで発表する留学生 京都大学 2023年12月15日〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- 京都大学: 派遣では短期・長期留学としてアフリカ10カ国へ33名を派遣。フィールドワークを基盤としたプログラムを実施
- 東京外大: 長期留学(実渡航)として、4ヶ国へ11名を派遣。短期・長期留学(実渡航[単位取得無])として3ヶ国へ3名を派遣。短期留学(オンライン)で、9名が単位取得した。

○ 外国人留学生の受入

- 京都大学: 短期留学として10カ国から18名を受け入れ全員が修了
- 東京外大: 4カ国から8名を受入。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 京都大学: 担当教員をアディスアベバ大学に派遣して単位互換やコチュテルの制度化を協議。単位認定を伴う半年間の招聘プログラムを実施。ダカル大学と2023年度に新たに派遣・招聘を実施。両大学とシラバス、単位認定について意見交換
- 東京外国語大学: 2023年5月にヤウンデ第一大学と学生交流協定を締結。プレトリア大学、ザンビア大学、ガーナ大学、プロテスタント人文社会科学大学とオンラインで交流プログラムについて協議。特定助教が南アフリカに、担当教員がカメルーンに渡航し、ステレンボッシュ大学およびヤウンデ第一大学と学生受入・派遣の交流プログラムについて担当部局と協議

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 京都大学: 教員・研究員の計14名が27回アフリカ諸国に渡航。協定校・関連組織、大使館、JICA事務所などを訪問して学生派遣および受入のための環境を整備。学内の複数研究科と連携しつつ、既存の学生派遣支援の枠組みを強化し、他大学に安全なアフリカ渡航のためのセミナーを開催。派遣・受入れを希望する学生の公募を実施し、JASSO奨学金を利用する留学を実現
- 東京外国語大学: 教員2名が計2回アフリカの協定校・関連組織に渡航。各アフリカ協定校および大使館から得た現地情報を基に、5月には次年度以降の派遣候補生に留学説明会を実施し情報提供。派遣学生に対するJASSO奨学金オリエンテーション、次年度の南アフリカ派遣予定学生への危機管理情報提供をおこなう南アフリカ情報交換会を2回実施。派遣予定者には、受入大学の国際局職員や教員の仲介を行い、学部生のアフリカ留学のための安全情報冊子を作成し、派遣予定学生に情報提供。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開、成果の普及

- 京都大学では、アフリカ研究実績が豊富で英語に堪能な特定研究員2名、英語対応可能な事務補佐員1名および支援職員1名、欧米大学の博士号を所持し国際業務の経験が豊富な学術研究支援員1名(エフォート20%)、東京外国語大学ではアフリカ研究実績が豊富で英語に堪能な特任助教1名を継続雇用し、国際的体制を整備した。日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)と連携し、本事業の情報共有やイベントの案内、教育交流事業の好事例の紹介等を発信し、国内大学に情報共有した。

■ グッドプラクティス等

- 両大学とも、アフリカの学生には予備的教育をオンラインで実施し、渡航後は、集中講座、企業等の視察、国際合同コンフェレンスを通じ、個別指導や実体験を基盤とした教育プログラムを提供。両大学の日本人学生も、アフリカ各国の協定校に渡航し、各校の窓口教員が、授業や調査を適切に指導し、各学生が探求する研究課題を補助。また安全なアフリカ渡航のための他大学にも公開したセミナー開催、安全情報冊子の作成・配布を通じて安心・安全なアフリカ渡航の基盤を構築。